

手引き

慣用句に強くなるろう！

一 慣用句の表現と成り立ち

二つ以上の単語が結び付き、全体として特別な意味を表す言い方を慣用句といいます。慣用句の代表的なものを覚えておくと、豊かな文章表現ができるようになります。

理解の道すじ

二 知っておきたい慣用句

1 よく使われる慣用句

- 油を売る
むだ話などをして仕事をさぼる。
- さじを投げる
あきらめてしまつて見放す。
- 図に乗る
調子に乗つてつけあがる。
- 太鼓判を押す
確かだと保証する。
- 棚上げる
そのままにしてほつておく。
- 根も葉もない
まったく根拠のないこと。
- ふにおちない
納得することができない。

2 体の一部分を使った慣用句

- 目**
目に余る
することがひどすぎて、見過ごせない。
- 目と鼻の先
ひじょうに距離が近い。
- 目を奪われる
我を忘れて見入る。
- 目が高い
物の値打ちを見きわめる力が優れている。
- 目が回る
非常に忙しい。



ステップ 1

どんな読み方でどんな意味で用いられている？

語源は何だろう？

ステップ 2

文章の中でどのように用いられる？

正確で、豊かな文章表現ができるようになる。

顔

顔が広い
顔が売れる

知り合いが多い。
世の中に広く知られる。

鼻

鼻が高い
鼻を明かす
鼻につく

得意になる。
相手を出し抜いて驚かす。
あきていやになる。

口

口車に乗る
口が滑る
口をはさむ

相手の巧みな言葉にだまされる。
言つてはいけないことを、うっかり言う。
話をしている中にわりこんで、しゃべる。

手

手を打つ
手を焼く

方法・手段をめぐらす。
取り扱いに困つてもて余す。

足

足が棒になる
足を引っばる
あげ足をとる

歩き回つてひどく疲れる。
人の仕事のじゃまをする。
人の弱点につけこんでなじ

耳

耳を貸す
耳が痛い

相手の相談にのる。
弱点をつかれ、聞いているのがつらい。